ミャンマークーデター5年

新聞の記事「ミャンマークーデター5年」に目が留まった。

クーデターから5年たっても、内戦は終わらず、軍の弾圧で民主派活動家や一般市民も７７００人以上命を落としているとのこと。

また、２０２４年2月に徴兵制が導入された為、中間所得層の若者は国外へ逃れているという。5年前よりは、都市のショッピングモールなどにぎわい、市場でも店が再開しているようだが、輸入規制があり、医療品や生活品も十分でない。市民は「政治の話をすれば警察署へ連行されるし、でもここで生活するしかないので、目立たないように。それが生きるすべだ」と。

私はクーデターが始まる1年前、２０２０年の2月にミャンマーを訪れているので他人事には感じられず、現地のガイドの方、また泊めてもらったペンションのオーナーの日本人夫妻の事が気がかりだ。ガイドや宿の仕事はやれているのだろうか。軍隊に連れていかれていないだろうか。素晴らしい多くの遺跡は大丈夫なのか。

大都市ヤンゴンには、まばゆい黄金の大きな寺院が沢山あり、世界遺産でもあり世界三大仏教遺跡の1つ、広大な敷地に３０００基以上の寺院や仏塔が立ち並ぶバガン遺跡。壮観な眺めで、夕日がすごい。インレー湖では湖の上で生活をし、浮島に畑を作って農業をしている。自然豊かな土地に少数民族が暮らしている。生活は裕福ではなくても、おびえる事はなかったはず。

軍隊を持ったら、政府に反対意見の市民は、力で押さえつけられてしまう。

労働大学企画編集委員　**秋島　泰子**